

R7/1/31 官民連携まちづくりシンポジウム

群馬県における官民連携まちづくり ～プロジェクトチームの取組～



自己紹介

—群馬県庁官民連携まちづくりプロジェクトチーム—

H28から有志で活動

R1政策プレゼンを経て、施策化（都市計画課所管）

- ▶ 公共空間の所有者として活用の促進
- ▶ まちづくりプレイヤー（民間）や市町村のサポート

ボトムアップ型
庁内部局
横断型チーム

とにかく
やってみる
チーム

人口増加・拡大傾向の時代から



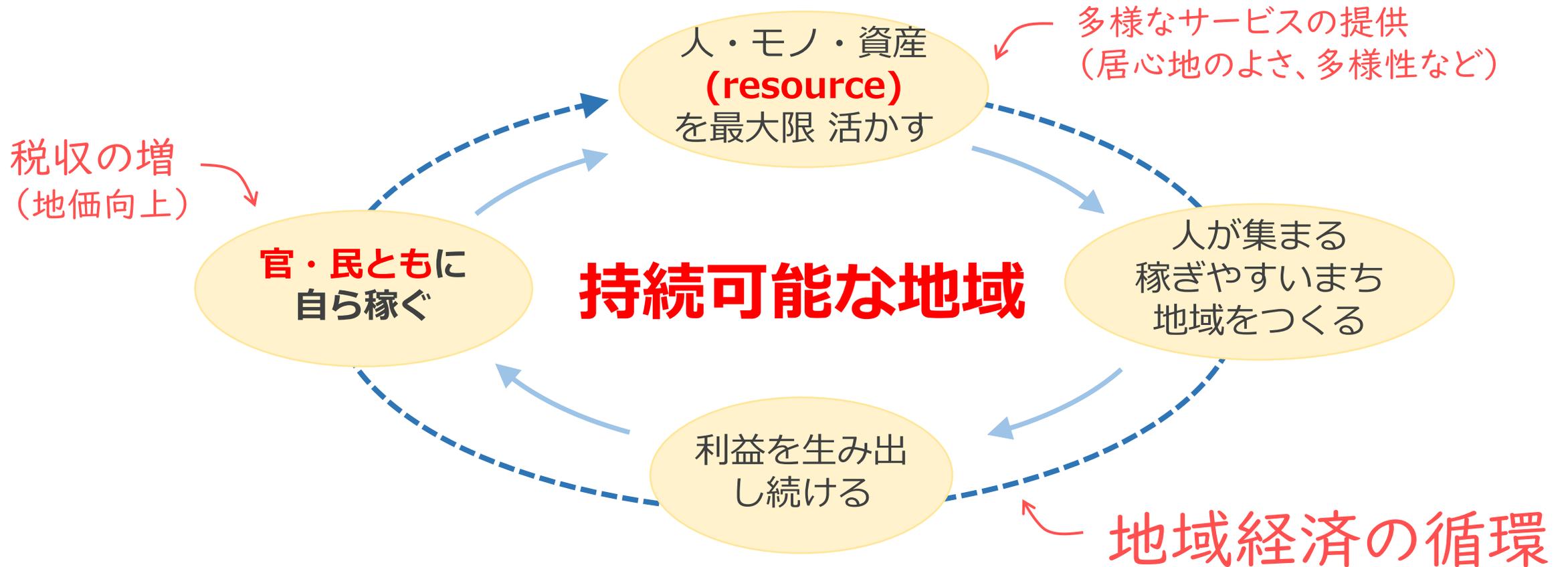
人口減少・縮退の時代へ

新たな価値観（多様性、well-being、SDGsなど）を
受け入れつつ

地域を持続させるためには、
地域経済を回すやり方、
まちづくりも変えていく必要がある

まちづくりの方向性 –Direction–

「にぎわい・活性化」ではなく、「**エリア価値の向上**」



公共施設・公共空間 + 民間の経営力



公共サービスのあり方を変える

多様なサービスの提供
(居心地のよさ、多様性など)
官民ともに稼ぐ

まちづくりの手法

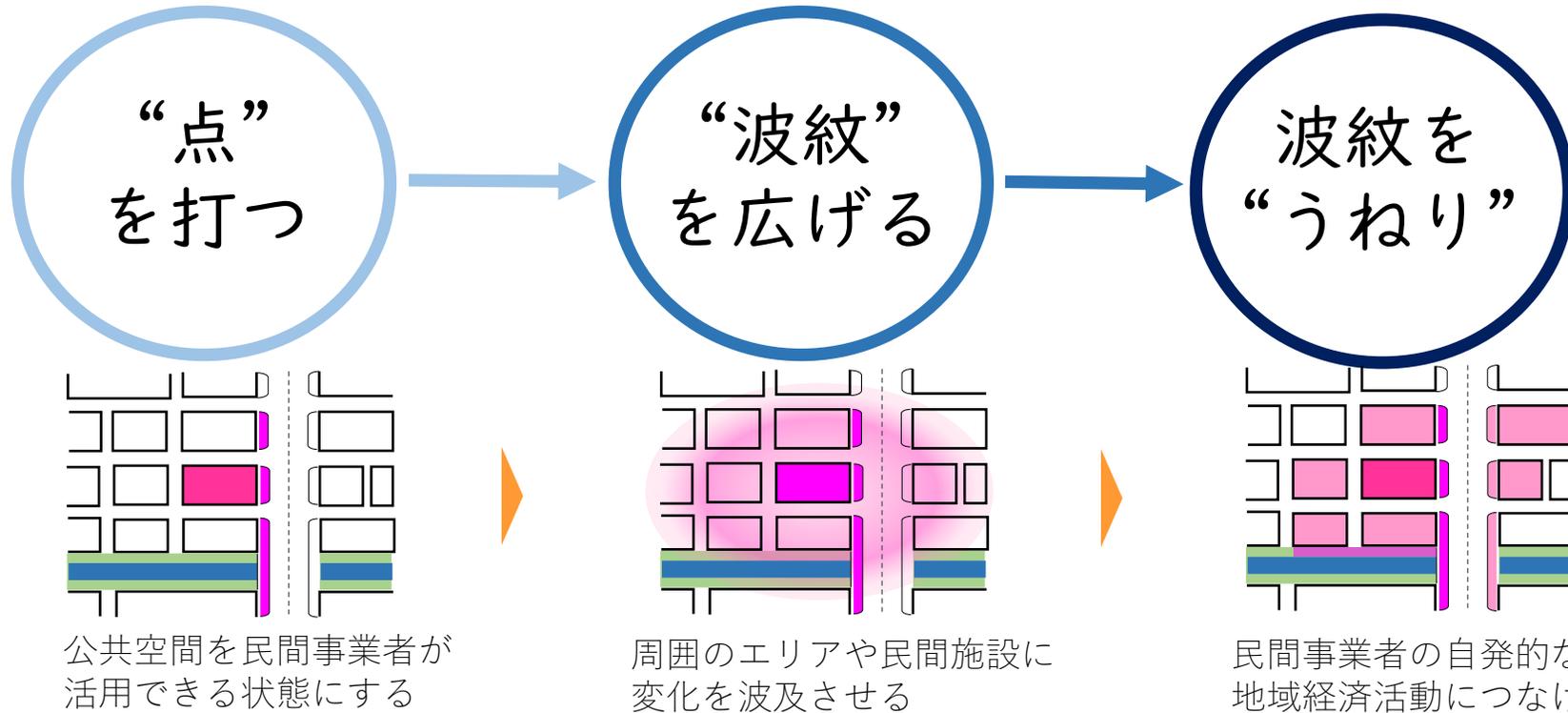
— Approach —

県管理の公共施設・空間から始める。
そして周囲へ広げる。

：

その流れがいずれ“うねり”となり、
民間事業者の自発的な活動/投資へつなげる。

一過性ではなく、
中長期的な
ビジョンを持った
民間事業者を連携



民間事業者の公共空間活用

民間事業者のまちづくりへの投資

まちづくりの施策

県土整備プラン2025(案) 抜粋

-政策3 未来につながる魅力的なまちづくり

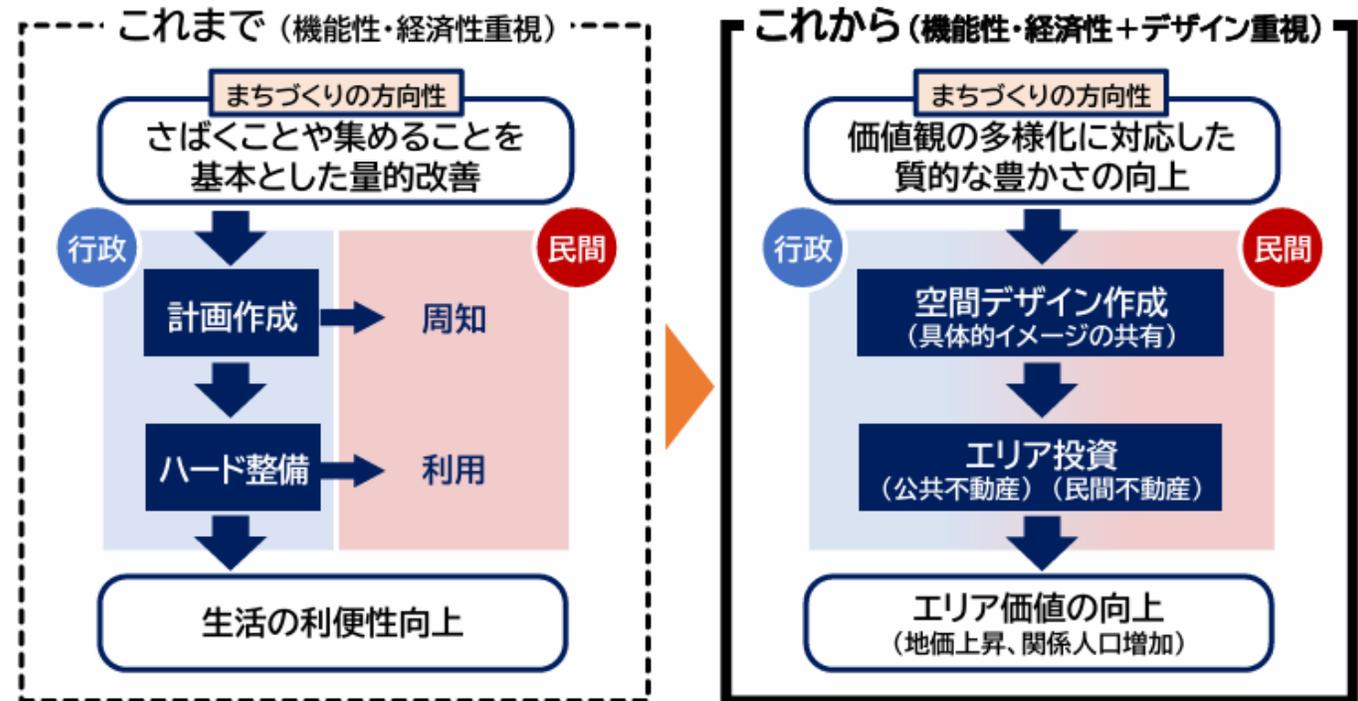
-施策1 **エリア価値**を創造する未来投資

-取組1 個性を活かした地域の
リーディングプロジェクト支援

(1) **ウォーカブル**なまちなかの形成

③ **官民共創による公共空間を
活用したまちづくり**

まちづくりのリーディングプロジェクトにおける取組概念



にぎわいと活力のある、**エリア価値の高い**、持続可能なまちづくりを目指し、官民が連携して、公共空間の新たな活用方法の検討や、沿道との一体的な活用を前提とした街路整備などにより、居心地が良く歩きたくなるまちなかの創出を促進します。

取組事例



- I 事業・制度の壁** 民間事業者が活用しやすい仕組みになっていない
- II 意識の壁** そもそも、官民ともに公共空間を活用できるという意識がない

上記2つの壁を取り除くため、課題解決や実効性のある手法検討及び実施、県内市町村や民間団体への支援を強化することを目的

とにかくやる。試して、風景を見せる

取組事例

— 桐生本町6丁目(県道桐生伊勢崎線) —

Before



日常の風景が...

地元のまちづくり団体
(UK) から道路空間の
活用について相談

取組事例

— 桐生本町6丁目(県道桐生伊勢崎線) —

道路占用許可基準の改正

- 公益性（地域の商店街等の合意や市町村の後援等）が認められれば、路上に飲食や購買施設が設置できるよう群馬県道路占用許可基準を改正。
- これにより、国の特例制度（歩行者利便増進道路等）を使わずに道路占用許可を出せる環境を構築。



- まちづくりを目的に地元の承認を得れば公的団体に限らず許可が可能
- 群馬県独自の運用が可能

令第8号物件 ー利便増進施設ー

A 高速自動車国道及び自動車専用道路以外の道路に設ける食事施設、購買施設等

(定義)

食事施設、購買施設その他これらに類する施設（以下「食事施設等」という。）は、道路の通行又は利用において一般的に発生する需要に対応した物品の販売又はサービスの提供を行う施設であって、ある程度の期間継続的に設置されるものをいう。なお、「施設」の概念は建築物に限られるものではないことから、食事施設等は机、椅子、調理器具等が一体となってオープンカフェ（食事施設）としての機能を果たすものやベンチ等の休憩施設等を含むものとする。

(方針)

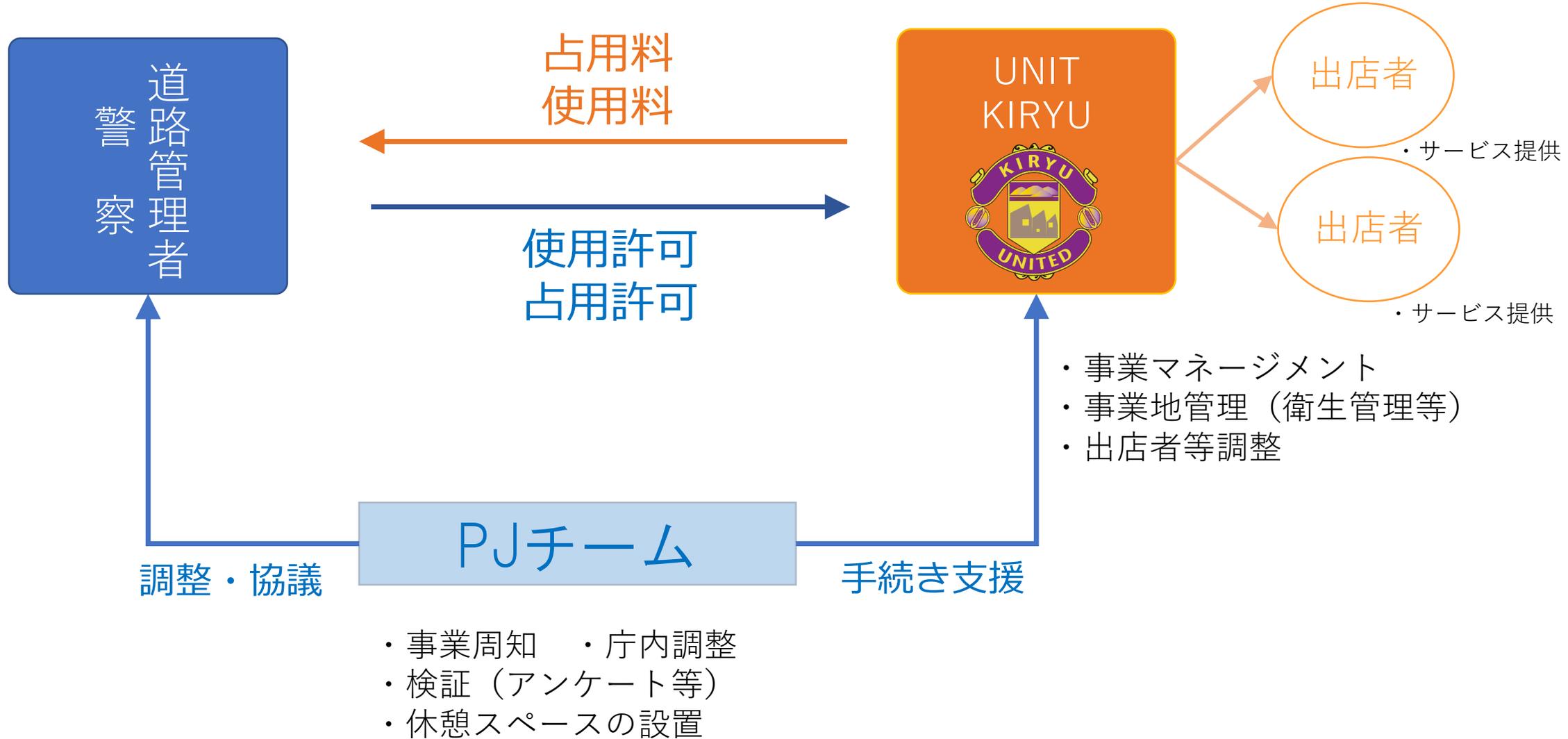
極力抑制すべきであるので、次の各項すべてに該当する場合で、真にやむを得ない場合に限り認めることができる。なお、総則第1条第1項第3号は適用しない。

- 1 食事施設等の占用が、地域の活性化や都市におけるにぎわいの創出等の観点から地方公共団体及び地域住民・団体等が一体となって取り組むもの、又はこれに準ずるものであること。ただし、公共交通機関が道路区域内に設ける施設内の内部又は特定連結路附属地に設けられるものについては、この限りでない。
- 2 食事施設等において販売される物品又は提供されるサービスが道路の通行又は利用において一般的に派生する需要に対応したものであること。
- 3 広く一般に対して物品の販売又はサービスの提供を行うものであって、特定の者のみを対象としたものではないこと。

群馬県道路占用許可基準（H31.4）

取組事例

— 桐生本町6丁目(県道桐生伊勢崎線) —



取組事例

— 桐生本町6丁目(県道桐生伊勢崎線) —

After RI.7 “歩道nite”

歩道を活用したマルシェを開催

県からの補助金は一切無し



公共空間が活用される
と地域（まち）が豊かになる

取組事例

— 桐生本町6丁目(県道〇〇線) —

RI.7 “歩道nite”

休憩スペースの設置 (実験)



取組事例

— 桐生本町6丁目(県道〇〇線) —



R1.12 “車道nite”



R1.7 : 歩道空間でのマルシェ
R1.12 : 車道全面通行止めでマルシェ
R6.12 : //

単発のイベントではなく、**日常の風景**へつなげる

- 沿線の空き物件オーナーの意識の変化
- 店舗の更新 → エリア価値の向上
(都心から、このエリアへ若い方が入ってくる)
- UNIT KIRYUも都市再生推進法人へ

取組事例

－官民連携まちづくり手引き等の作成－

群馬県 官民連携まちづくり基本方針
～官民連携まちづくり ぐんまモデル～

群馬県は、公共施設・空間の民間活用を積極的に進めます。



今あるモノの使い方を変える。
それにより、日常の風景を変え
みんながより豊かな生活に…

令和2年 月
群馬県
(官民連携まちづくりプロジェクトチーム)

本格的に活用を進めるには？

公共性の高い場所を占有するため、必要な条件を確認しましょう

道路 の活用手続き

(本編P6～)

例えば道路では、道路占用許可と道路使用許可をとることで、軒先の歩道にテラス席を設置したり、歩道でカフェスタンドを運営したり、イベントを定期的に関催し続けることでマルシェをまちの日常の風景にしたりすることが可能です。



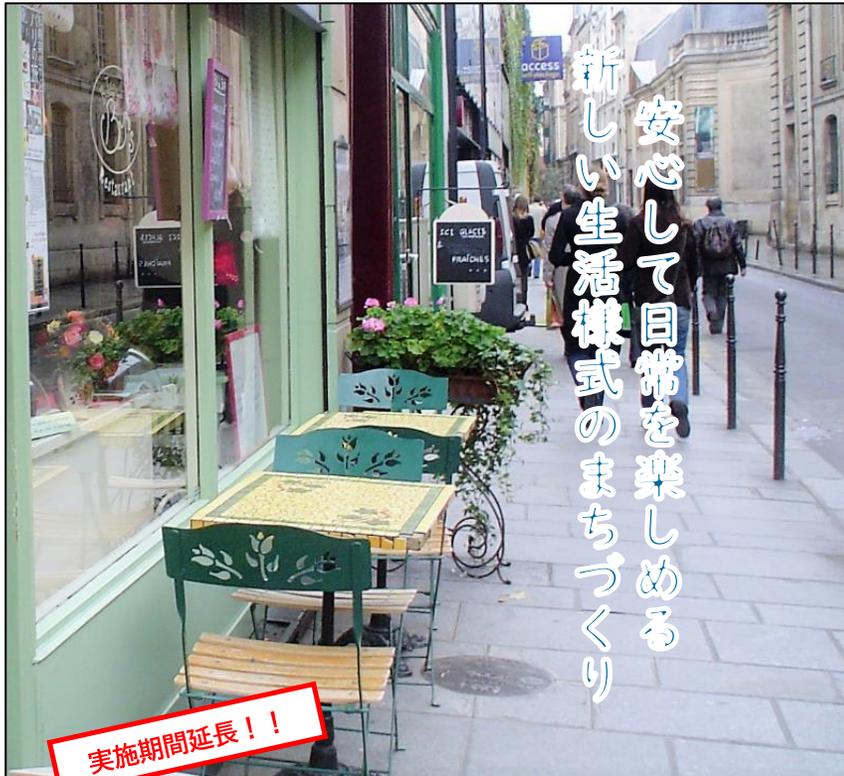
- 群馬県として、対外向けの意思表示
- 取組推進のイメージ共有
- 庁内の意識変革

- 手続き、やり方の整理による取組への参画しやすさの向上
- フローチャートなどにより、手続きの煩雑さ解消
- 事業制度化により、積極的活用につなげる

メンバーにより、
全て直営で作成！！

取組事例

ー歩道空間オープンテラスー



歩道空間オープンテラス 社会実験

県道
国道
3桁
沿道飲食店対象

県では、新しい生活様式に対応したまちづくりのあり方を探るため、社会実験に参加する飲食店オーナーや商店街振興組合等を募集します。裏面の社会実験までのステップと応募条件を確認の上、WEBでご応募ください。

1店舗から
応募OK

実施主体 群馬県 官民連携まちづくりプロジェクトチーム

【問い合わせ先】群馬県都市計画課まちづくり企画推進係 TEL:027-228-3661

【目的】

- ・歩道空間の活用における課題分析
- ・新たなまちづくりの実践
- ・コロナウイルスの影響を受けた飲食店の支援

【実施状況】

期間：R.2.7～R.4.9.30

参加：1店舗（実績：4店舗2団体）

コロナ
緊急支援

ポイント

- ・プロジェクトチーム（県）が支援するという形で
占用許可が可能に！
※H30年度に改正した県道路占用許可基準を活かす
- ・1店舗（店先）からの出店OK！
※国の同じ取組よりも柔軟な基準設定



なつかし屋(太田市)



モリムラ珈琲店(桐生市)



左門(桐生市)



シンバル(前橋市)



Before



After

実施概要

- 公募期間 | R3.3.24～R3.4.6
- 応募状況 | A&V企画(株) 赤城南麓でトントン広場を経営
- 実施状況 | 「HUTTE HAYASHI CAFÉ」 R3.7.17～
継続中※
- チームの関与 | 改装費は実施主体の自己負担
自然環境課の募集要項作成に協力
- ・フォーマットの提供
 - ・条件整理検討や審査協力等



※R5年度から事業を「市場調査」に変更し、営業を継続中

取組事例

ートライアルサウンディングー

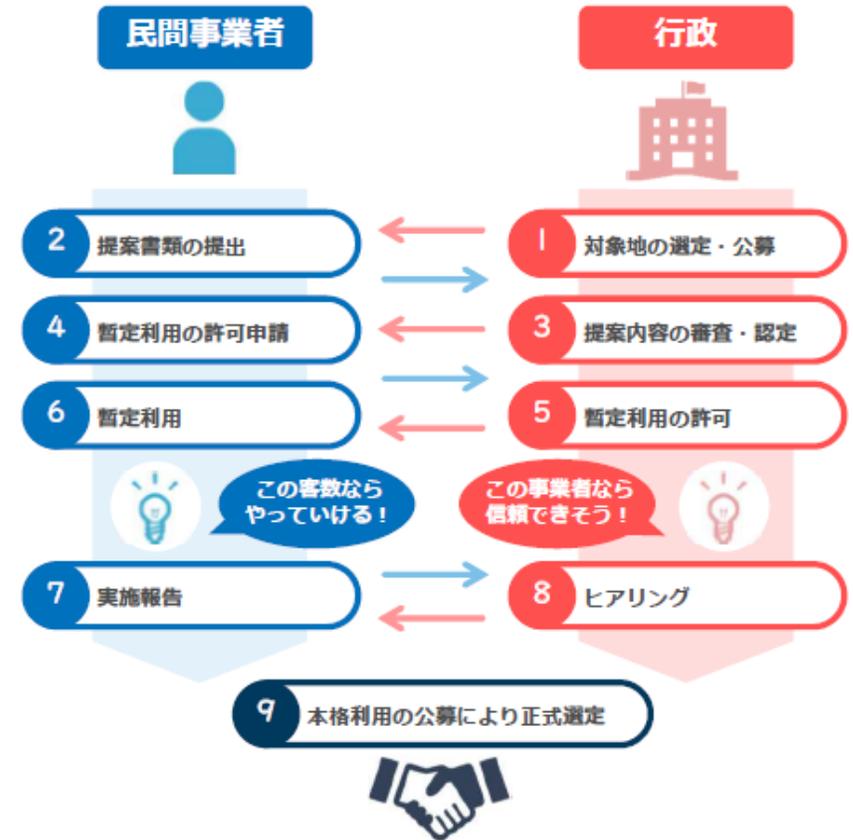
トライアル・サウンディング実施要領の公開

- 使いたい公共空間があっても、集客の見通しがわからなければ、事業を始めるのは難しい。
- そこで、お試し利用が可能な制度としてトライアル・サウンディングの導入を促すため、ひな形となる実施要領を独自に作成して公開。

トライアル・サウンディングとは

行政が保有する公共施設・空間の暫定利用を希望する民間事業者を募集し、一定期間、実際に使用してもらう制度。

民間事業者は使い勝手や採算性、行政は民間事業者の信頼性等を判断できる。



トライアル・サウンディングの流れ

取組事例

— 県庁舎の活用 —

県庁マルシェ

■野菜販売



■キッチンカーによるフード提供



■マルシェ会場



■アート・デザイン展示



■開催期間中スナック



- ・ 公共空間活用の実践
- ・ 規格外野菜の販売
- ・ キッチンカーでのランチ提供
- ・ ストリートファニチャーの展示

実施概要

場 所 | 県庁正面玄関
内 容 | 令和3年11月8日 (月)
から11月21日 (日)

取組事例

— 県庁舎の活用 —

県庁キッチンベース(ランチ・sunset)

- 公共空間活用の実践
- コロナの影響を受けた飲食店（キッチンカー）の支援
- コロナ禍における屋外空間のニーズ確認
- 特例的活用から日常化への移行を目指して実施

実施概要

場 所 | 県民広場

内 容 | ○ ランチ

毎週金曜日 計48回 (R3.3末まで)

○ sunsetキッチンベース

R2. 8月 2回 (各回3店舗)

R2.10月 3回 (各回3店舗)



「下仁田駅周辺（まちなか）の活性化を検討したい。
よいコンサルを知りませんか？」

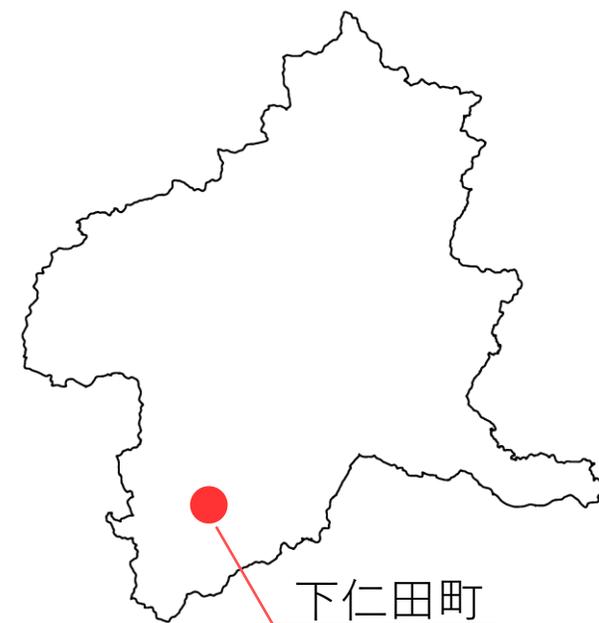


「プロジェクトチームでお手伝いします！！」

- ・ 検討の進め方の相談
- ・ ワークショップの企画検討、とりまとめ
- ・ ワークショップファシリテーター

下仁田町

- ・ 人口 約7,000人の中山間の町
- ・ 主な産業：農業、林業
- ・ 高齢化率 約40%



下仁田町

取組事例

— 市町村・民間支援 —

下仁田町街なか活性化事業支援

「街なか活性化」事業

街なか活性化に向けた取組みが始まりました

下仁田町では、町内の中心地域を活性化させることで、町の商業振興及び地域活性化へ繋げ、ひいては全域住民へ経済的又は社会福祉的な波及を図るための取り組みに着手しました。町では、今年9月に検討委員会を立ち上げ、各種活性化策の検討を開始したところであり、今後の検討状況は広報誌や町ホームページ等を通じてみなさんにお知らせします。今回は、これまでに実施した①アンケート調査、②町内在住者との意見交換、③下仁田高校との連携内容を中心にお知らせします。

計画策定の背景

近年の人口減少や少子高齢化の影響を受けて、下仁田町の中心地域でも以前に比べて空き家や空き店舗等が目立つようになってきました。また、新型コロナウイルスの感染拡大などにより、私たちが取り巻く環境・社会情勢が大きく変化してきています。こうした状況下においても持続可能なまちづくりを進めるには、地域毎の特性や課題を捉え、各種対応策を講じることが急務となっています。

計画策定の進め方

計画策定にあたり、地元商工会や商業協同組合、教育関係者、上信電鉄、有識者などで構成する検討委員会を設置しました。現在、①住民意見、②着目すべき視点、③将来予測を踏まえ、取り組み施策の方向性、実施内容等を検討しています。

また、今回は様々な立場の方の幅広い意見やアイデアを取り込むため、検討委員会の下部組織に地元住民、移住者「ターナー、Uターン」、「ねぎとこん」や下仁田奨学金の奨学生などで構成する分科会を設置しました。



図1 計画の対象範囲(下仁田駅から徒歩5分圏内を想定)





- 施設基本構想検討会のメンバーとして支援
- 事業化に向けて予算化

事業コンセプト

つどう つながる つくりだす 街なか

世代を超えて 一歩踏み出す あなたを 応援するまち

つどう

まちに人がつどい、自分ゴトとして地域を考える

街なかに人が集まり、交流を通じて、これからの地域のありたい姿、地域の問題や課題について自分ゴトとして考える。

つながる

人と人が繋がり、連携した新たな取組みが始まる

地域のありたい姿を実現しようとする人と人が繋がり、地域資源（街並み、食文化、自然など）を活用した新たな取組みが試行的に動きはじめる。

つくりだす

地域のヒト・モノ・経済の好循環をつくりだす

新たな取組みによって地域に活力が生まれ（ブランド力の向上）、新たなビジネスが創出したり、生活環境が向上したり、来訪者が増えたり、地域のヒト・モノの好循環をつくりだす。

取組内容(1) つどいの場の創出【下仁田駅周辺】

■ 誰もがつどえる空間



つどいライブラリー（前橋市）

■ コンセプト

- 用途を限定せず、様々な使い方を促す
- ターゲットを限定せず、誰でも入りやすく

■ こんな利用（場）が想定できる

- 読書や趣味が楽しく、勉強もできる、多世代がつどえる
- 豊かな自然や電車をゆっくり眺めることのできる憩いの空間（新たな町のスポット）
- 学生の地域探究（フィールドワーク）の拠点
- 来訪者が情報（観光情報や地元のオススメ情報）を収集できる
- 電車やバスの待ち時間にゆっくり過ごせる



下仁田町観光案内所



やまなテラス（高崎市）

事例紹介：つどいライブラリー

銀行の建物内にあるオープンスペース、ライブラリーやコワーキング、セミナールームのほか、コーヒースタンドなどが整備されている。ライブラリーでは、趣味の書籍などが置かれ、読書が楽しめるほか、中学生や高校生が学習したり、仕事もできる。銀行が休みの日でも開放しており、誰でも自由に使用でき、地域に開かれた空間になっている。

取組事例

—市町村・民間支援—

下仁田町街なか活性化事業支援



R6.3
Otenkiマルシェ



民間活用をしていなかった空間
が徐々に変化

取組事例

—市町村・民間支援—

下仁田町街なか活性化事業支援

R7.1

しもにた青空市



民間活用をしていなかった空間が
徐々に変化

取組事例

—市町村・民間支援—

榛東村商工会クリスマスマルシェ



2022.12.17[土]
10:00~15:00
場所:しんとうワイナリー
住所:榛東村大字山子田1972-4
※駐車場はふるさと公園も使用可能
後援:榛東村
主催:GREENDOOR CAFE BAR
前橋市荒牧町2-30-7
027-226-5413

Shinto Brewing Wine
しんとう醸造ワイン
CHRISTMAS MARCHE

Shop& workshop
☆しんとうワイナリー
【ワイン、試飲できます】
☆しんとうふるさと夢工房
【手作りハム、ソーセージ、ジャーキー】
☆iroiro
【真鍮アクセサリー/
タイダイ染めアイテム販売】
☆tie
【バラコードアクセサリーの販売とWS】
☆お菓子工房とろこ
【焼き菓子販売】
☆sacconon
【マクラメのWSと販売】

☆muguet
【チェコガラス、レザーアクセ、洋服】
☆baby's smile
【ドライフラワー花雑貨】
☆樋口りんご園
【おやつとりんご】
☆yossy succulent
【アガベなどの植物販売】
☆だるま文庫
【移動文庫—古絵本販売、読み聞かせ】
☆そばかすたぬき
【似顔絵】
☆bj:6120
【ガーデン雑貨、インテリア雑貨】

Foodtruck
☆GreenDoor Food truck
【カフェごはん、ドリンク、デザート】
☆FAREASTGALLEY
【オリジナルバーガー】
☆AIDIA COFFEE
【コーヒー...他】
☆Beans Cafe
【沖縄カフェごはん、サーターアンダギー、ドリンク】

- 地元商工会と連携。

地元産業であるワイナリーを盛り上げるために、公園を使ったマルシェをしたい

- パブリックマインドのある民間事業者を見つける
- 榛東村の理解を得るために、まずは民地で実施して、風景を見せる。



約550人の来場！！大成功！！

R5.6に規模拡大して、民間主催で再度実施

取組事例

—市町村・民間支援—

榛東村商工会クリスマスマルシェ



取組事例

—市町村・民間支援—

Gunmori BASE(県立公園)

- PJメンバーが指定管理者・ネーミングライツ事業者と連携。
- 企画検討のほか、県施設管理担当と協議を実施
- これまで認められていなかった夜間利用などを実践し、公園活用の可能性を広げる

指定管理者による様々な取組



群馬県立公園
アイ・ディー・エー群馬の森
正門前芝生広場
(雨天中止)

Christmas Event

GUNMORI BASE

群馬の森をもっと大人も楽しめる空間へ。群馬の森を基点に、様々なアクティビティを通じたイメージアップに取り組み、地域の暮らしが今よりちょっと豊かになることを目指します。

2022

12/3 [sat]	12/4 [sun]
ハンドメイド雑貨 10:00 - 15:00 アクセサリーや雑貨など、個性豊かなハンドメイド作品が集合	クリスマスリースづくり 10:00 - 15:00 松ぼっくりなどを使った自分だけのリースづくり体験 (有料)
	ライトアップ 15:00 - 17:30 竹灯籠によるライトアップで癒いの空間を演出

キッチンカーも出店!

Event 12/3

- ※ サックスコンサート 13:30~ / 15:00~
- ※ 極寒シネマ-trial- 17:30~
冬空の下で試験上映を行う、実験的プログラムです。十分な防寒対策をして、一緒に参加してみませんか?
・上映作品: バック・トゥ・ザ・フューチャー
・参加費: 先着50名様を無料でご招待
・申込: QRコードから案内フォームにアクセス

主催: グリーンクラフトマン株式会社 (指定管理者) ※
共催: GUNMORI BASE 実行委員会 ※
協賛: 株式会社アイ・ディー・エー ※

<https://forms.gle/vs1zY6Y4KJ39N19>

第2版



第1回

官民連携まちづくり相談会

～まちづくりに関するお悩み、一緒に考えます～

- 計3回開催（R5.8月現在）
- 相談件数：10県（自治体3件、民間7件）
- 実装案件：1件 継続案件：3件



まとめ



まとめ

- これからのまちづくりを評価する指標 = エリア価値
- エリア価値を高めるために、民間事業者との連携が必須
- ポイントは、民間事業者がまちづくりに関与できる状況をどのように作っていくか

【第3部への話題提起】 **そのためには・・・**

- ① **行政で定着させる、マインドを変えるには？**
- ② **民間事業者の受け皿（相談窓口）はどうする？**

試行錯誤をしながら、変えていく